

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2022 年 6 月 13 日作成 第 1.0 版

研究課題名	腎腫瘍に対するロボット支援下腎部分切除術(RAPN)の有用性と安全性を検討する観察研究
研究の対象	2016年3月1日から2022年5月31日までに横浜市立大学附属病院で腎腫瘍に対してロボット支援下腎部分切除術(RAPN)を受けられた患者さんを対象とします。
研究の目的	小径腎腫瘍に対しては、手術の侵襲性、再発率、術後腎機能保護の観点から、近年ロボット手術による腎部分切除術が主流となっています。当院は、腎部分切除術件数の多い施設であり、難症例や比較的大きな腫瘍に対しても積極的に腎部分切除術を導入しております。その為、RAPNの有用性と安全性を検討することにより、将来治療選択の最適化や合併症予防法の開発に貢献できる可能性があります。
研究の方法	診療録から情報を収集します。 いずれも通常の診療で得られた情報・検体を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 西暦 2027 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の項目	上記対象期間に当該手術を受けられた患者さんを対象とし、下記の日常診療で実施された項目を研究に使用します。 患者基本情報（年齢、性別、身長、体重、既往歴、臨床病期、入院期間）、血液検査、手術内容、病理学的所見、術後合併症、有害事象、再発日など。 研究対象者の氏名等特定の個人を識別することができる情報を使用しない等、研究対象者の個人情報の保護について十分に配慮します。
試料・情報の授受	本研究では、外部機関との検体・情報の授受はありません。
個人情報の管理	検体・情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう対応表とよばれる個人と識別コードを対応させた表を作成しますが、その表は当院外へ提供することはありません
試料・情報の管理について責任を有する者	研究責任者：横浜市立大学附属病院 泌尿器科 植村 公一
利益相反	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の間接的な関係を含むものです。本研究は、大学の基礎研究費を用いて行います。したがって、開示すべき利益相反はありません。

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

研究組織 （利用する者 の範囲）	【研究機関と研究責任者】 研究機関：横浜市立大学附属病院 研究責任者：横浜市立大学附属病院 泌尿器科 植村 公一
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。</p>	
<p>問合せ先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 泌尿器科 （研究責任者）植村 公一</p> <p>電話番号：045 - 787-2800（代表） FAX：045 - 786 - 5775</p>	